

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-16301

(P2004-16301A)

(43) 公開日 平成16年1月22日 (2004.1.22)

(51) Int. Cl.⁷

A47K 17/02

F 1

A47K 17/02

Z

テーマコード (参考)

2D037

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-172155 (P2002-172155)
 (22) 出願日 平成14年6月13日 (2002.6.13)

(71) 出願人 591103003
 ニッテン株式会社
 大阪府大阪市東淀川区小松3丁目3番13号
 (74) 代理人 100066728
 弁理士 丸山 敏之
 (74) 代理人 100100099
 弁理士 宮野 孝雄
 (74) 代理人 100111017
 弁理士 北住 公一
 (74) 代理人 100119596
 弁理士 長塚 俊也
 (72) 発明者 若林 照美
 大阪府大阪市東淀川区小松3丁目3-13
 ニッテン株式会社内
 Fターム (参考) 2D037 EB01

(54) 【発明の名称】 トイレマット

(57) 【要約】

【課題】 洋式便の開口部からのトイレ床面への垂れ落ちを防止する。

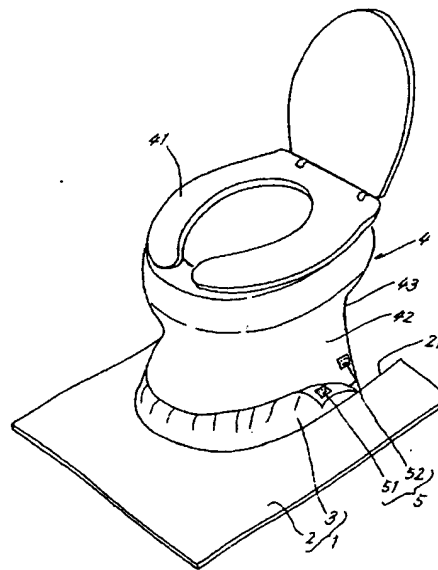
【解決する手段】 洋式便器4の足元に敷くトイレマットにおいて、便器脚部42が嵌まる開口部21の縁に該脚部42の下部に被さる被せ布3を設ける。

トイレマット1を、その開口部21に洋式便器4の脚部42が嵌まる様にトイレ床面に敷き、被せ布3を便器脚部42の下部に被せる。

便器の開口縁から小便が脚部42を伝って零れ落ちても、該脚部42の下部に被さっている被せ布3がこれを吸収してトイレ床面に流れ落ちることを防止できる。従って、便器脚部42の周辺のトイレ床面を尿で汚したり、尿の臭いがつく問題を解消できる。

又、被せ布3がトイレマット本体2の開口部21と便器脚部42のサイズの違いによって生じる隙間を隠し、体裁を良くすることができる。

【選択図】 図3



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

洋式便器（４）の足元に敷くトイレマット（１）において、便器脚部（４２）が嵌まる開口部（２１）の縁に該脚部（４２）の下部周面に被せる吸水性の被せ布（３）が設けられているトイレマット。

【請求項 2】

洋式便器（４）の足元に敷くトイレマット（１）において、便器脚部（４２）が嵌まる開口部（２１）を有するマット本体（２）と、開口部（２１）の縁に取り付けられ便器脚部（４２）の下部周面に被さり吸水性及び該縁に沿う方向に伸縮性を有する被せ布（３）とによって構成されているトイレマット。

【請求項 3】

被せ布（３）は、マット本体（１）の開口縁に沿う方向に引っ張り気味にしてマット本体（２）に縫着されている請求項 1 又は 2 に記載のトイレマット。

【請求項 4】

洋式便器（４）の足元に敷くトイレマット（１）において、便器脚部（４２）が嵌まる開口部（２１）の縁に、該脚部（４２）の下部周面に密着して被さるシート部材が設けられているトイレマット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する分野】

本発明は、洋式便器の足元に敷くトイレマットに関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

洋式便器の足元に敷くトイレマットは、便器の脚部が嵌まる略 U 字状に切り込んだ開口部が形成されている。

洋式便器の脚部の形状は、メーカーや品番によって異なり、トイレマットの開口部に便器の脚部が隙間なく嵌まることは殆どない。

このため、小便が便器の開口縁から脚部外面を伝って零れ落ちれば、脚部周面とトイレマットの開口縁との間から床面に流れ落ち、床面を汚す。

トイレマットの洗濯は簡単に出来るが、床面の尿の汚れや臭いは簡単には取れない。

特に、トイレ床面と便器脚部の隙間に侵入した尿の汚れは、便器を外さない限り、取り除くことは出来ず悪臭を放つ。

本発明は、上記問題を解決できるトイレマットを明らかにするものである。

【0003】

【課題を解決する手段】

本発明は、洋式便器の足元に敷くトイレマットにおいて、便器脚部（４２）が嵌まる開口部（２１）の縁に該脚部（４２）の下部周面に被さる吸水性の被せ布（３）を設けたことを特徴とする。

吸水性の被せ布に替えて、トイレ脚部の下部に周面に密着して被さるシート部材をマットの開口部（２１）に装着しても可い。

【0004】

【作用及び効果】

トイレマット（１）を、その開口部（２１）に洋式便器（４）の脚部（４２）が嵌まる様にトイレ床面に敷き、被せ布（３）を便器脚部（４２）の下部周面に被せる。

便器（４）の開口縁から小便が脚部（４２）を伝って零れ落ちても、該脚部（４２）の下部に被さっている被せ布（３）がこれを吸収してトイレ床面に流れ落ちることを防止できる。トイレ床面と便器脚部（４２）との間の隙間に尿が侵入することもない。

従って、便器脚部（４２）の周辺のトイレ床面を尿で汚したり、尿の臭いがつく問題を解消できる。

又、被せ布（３）がトイレマット本体（２）の開口部（２１）と便器脚部（４２）のサイ

10

20

30

40

50

ズの違いによって生じる隙間を隠し、体裁を良くすることができる。

トイレ脚部の下部に周面に密着して被さるシート部材をマットの開口部（２１）に装着した場合でも、トイレ床面に尿が流れ落ちることを防止できる。

【０００５】

【発明の実施の形態】

以下の説明で、前とは、図３に示す洋式便器（４）の便座（４１）に座った状態で、使用者の顔の向く側、後とは背中側、即ち便座蓋の枢支側である。

図１に示す如く、実施例のトイレマット（１）は、略Ｕ字状の開口部（２１）を有するマット本体（２）と、該本体の略Ｕ字状開口縁に繋がった帯状の被せ布（３）とによって構成される。

【０００６】

マット本体（２）は、従前のトイレマットと同様にして厚手のパイル地製でも可いが、洗濯して乾き易いもの、例えば、タオル地と綿の装飾布を縫い合わせたものが望ましい。

マット本体（２）の略Ｕ字状開口部（２１）はマットの後縁に開口しており、便器脚部（４２）の下部が余裕のある状態に嵌まる大きさである。

実施例では、マット本体（２）は、長さ L_1 70～90 cm、幅 W_1 55～60 cmであり、開口部は、奥行き L_2 35～50 cm、幅 W_2 25～30 cmである。

【０００７】

帯状の被せ布（３）は、便器脚部（４２）の前面から両側面をカバーする長さであり、幅は、マット本体（２）の開口部（２１）に便器脚部（４２）が嵌った状態において、被せ布（３）が便器脚部（４２）の下部にもたれ掛かる余裕のある幅とする。

実施例の被せ布（３）は、長さ75～90 cm、幅5～9 cmである。

被せ布（３）はリブ編して形成され、長手方向に伸縮性を有し、吸水性に優れている。マット本体（２）の開口縁にミシンで縫着する際、被せ布（３）にテンションを掛けて生地が少し伸びた状態でマット本体（２）に取り付けられる。

このため、被せ布（３）をマット本体（２）に縫着した自然状態において、被せ布（３）の縫着縁（３１）の長さに対して、反対側の自由縁（３２）の長さは短くなっている。

【０００８】

被せ布（３）の両端外寄りに、面ファスナー（５）の雄側又は雌側シート片（５１）を接着又は縫着する。

【０００９】

然して、便器脚部（４２）に対して、マット本体（２）の開口部（２１）の奥が便器脚部（４２）に達するまで嵌め、開口縁に取り付けた被せ布（３）を該脚部（４２）の下部にもたれ掛かる様に被せる。

便器脚部（４２）の形状は、メーカ、品番によって異なるが、便座（４１）側から下方に急激に窄まり、該窄まり部（４３）からトイレ床面側へ徐々に拡大しているものが多い。

被せ布（３）は、縫着縁（３１）に対して反対側の自由縁（３２）の長さが短くなっているから、被せ布（３）を上側に起こせば、自然に便器脚部（４２）の外周に沿う様にもたれ掛かって、該脚部（４２）の下部に被さる。又、被せ布（３）は長手方向、即ち、脚部（４２）の周方向に伸縮性を有しており、脚部（４２）の曲面に密着して被さる。

【００１０】

便器脚部（４２）には、被せ布（３）両端の面ファスナー（５）の雄側又は雌側シート片（５１）との対向位置に、相手シート片（５２）を両面粘着テープ等で接着しておく。被せ布（３）を便器脚部（４２）に沿わせて長手方向に少し引っ張り気味にした状態で、面ファスナー（５）で被せ布（３）の両端を便器脚部（４２）に着脱可能に係止する。

【００１１】

便器開口縁から小便が脚部（４２）を伝って零れ落ちても、該脚部（４２）の下部に被さっている被せ布（３）がこれを吸収してトイレ床面に流れ落ちることを防止できる。従って、便器脚部（４２）周辺のトイレ床面を尿で汚したり、尿の臭いがつく問題を解消できる。

又、被せ布（３）がトイレマット本体（２）の開口部（２１）と便器脚部（４２）のサイズの違いによって生じる隙間を隠し、体裁を良くすることができる。

【００１２】

実施例の様に、被せ布（３）を少し引っ張り気味にして両端を面ファスナー（５）によって便器脚部（４２）に係止すれば、被せ布（３）の自由縁（３２）と便器脚部（４２）とに間に隙間の生じる余地はなく、又、被せ布（３）が該脚部（４２）を滑ってずり落ちることを確実に防止できる。

【００１３】

上記実施例の説明は、本発明を説明するためのものであって、特許請求の範囲に記載の発明を限定し、或は範囲を減縮する様に解すべきではない。又、本発明の各部構成は上記実施例に限らず、特許請求の範囲に記載の技術的範囲内で種々の変形が可能であることは勿論である。

10

例えば、被せ布（３）をマット本体（１）に接着剤で接着したり、ジッパーによって取り外し可能に取り付けることもできる。

又、吸水性の被せ布（３）に代えて、ゴムシート等、軟質で便器下部にフィットし易い材質のシート部材をマット本体（１）の開口縁に装着しても、便器と該シート部材との間から、トイレ床面に尿で汚すことを防止できる。

又、面ファスナー（５）に代えて、被せ布（３）又は上記シート部材の両端に紐を取り付け、便器脚部の裏側で紐を結んで被せ布（３）又はシート部材を引っ張り気味に支持することができる。

20

【図面の簡単な説明】

【図１】トイレマットの正面図である。

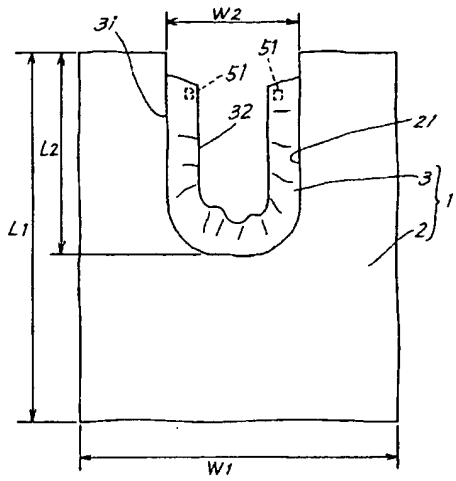
【図２】マット本体の開口部と被せ布の斜面図である。

【図３】トイレマットの使用状態の斜面図である。

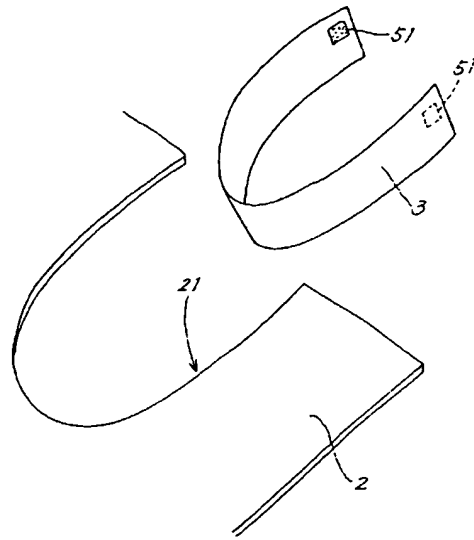
【符号の説明】

- （１） トイレマット
- （２） マット本体
- （２１） 開口部
- （３） 被せ布

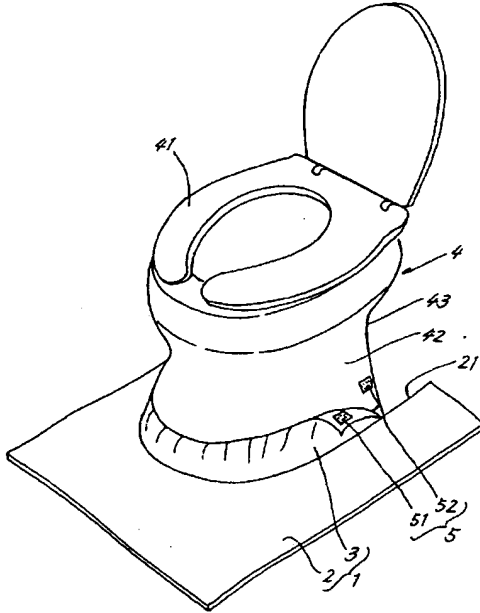
【 ㊦ 1 】



【圖 2】



【图 3】



BEST AVAILABLE COPY